

令和7年10月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和7年10月号」をお送りいたしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

詩人の草野心平が「ザボンの月」と称した美しい月を種差海岸で鑑賞するイベント「世界最大級のお月見会」が、11月1、2日に開催されます。

当日は、種差天然芝生地での月見のほか、市内在住ピアニストのデビット・マッシュューズさんによるステージイベント、種差地域の4店舗による飲食物の販売が行われ、地元ならではの味覚を楽しみながら、美しい月を眺めることができます。

また、本イベントにあわせて、11月1日に団体専用臨時列車を運行する旅行商品がJR東日本びゅうツーリズム&セールスより販売中です。オリジナルのおちょこ付きで、車内と到着後に八戸酒造による日本酒のお振舞いが行われるほか、飲食販売で利用できる食事券も含まれ、ツアー参加者限定メニューも提供されます。

種差海岸でのお月見とジャズ、地元の味覚で、秋の種差海岸を満喫してみてはいかがでしょうか。

▼旅行商品「八戸秋の幻想夜会 世界最大級のお月見会 in 種差海岸」の詳細はこちら
<https://www.jrview-travel.com/reserve/travelItem/detail?genteiCd=2&courseNo=25H2578>

◎皆様へのお願い

所属、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 03-3261-8973 / FAX 03-3239-6723

E-mail tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

入 戸 10月号 レ ポ ー ト

令和7年9月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸消防本部 119番映像通報システム導入 県内2例目
(2)	同行者優待「超帰省」満喫 八戸で街歩きなどモニターツアー
(3)	「みなっ知」来館者20万人達成 震災伝承施設
(4)	八戸市 本年度のデジタル技術活用事業開始
(5)	八戸市営バス デジタルチケット導入 1日乗車券5種
(6)	中心街、本好きでにぎわい「八戸ブックフェス」開催
(7)	八戸市と誘致企業 人材確保へ意見交換
(8)	八戸公園こどもの国・遊園地ゾーン フリーパス導入検討

【産業】

記事	概要
(9)	八戸・谷地田地区 農地整備が本格化 担い手へ集約、経営拡大
(10)	八戸市魚菜小売市場 9、10月第2土日曜にお試し「臨時営業」
(11)	はちのへ企業魅力発信×発見フェア 生徒や学生、ブースで体感
(12)	米国スーパーで青森フードフェア 八戸圏域商品アピール
(13)	サンフェスHACHINOHE2025初開催 八戸の誇る「職」「食」体感

【地域】

記事	概要
(14)	南部弁ユーモアあふれ 南部昔コキャラバン隊 初の発表会
(15)	鍛冶町地区の喫茶ヘバナ 朝食で団らん多世代交流 高齢者をサポート
(16)	お薦め名所 ポスターに 工大二高生、八戸駅連絡通路に展示

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	県民文化祭 八戸主会場に 芸術の秋 舞踏で幕開け
(18)	佐々木選手（工大一）国スポ競泳200m個人メドレー2連覇
(19)	わんぱく相撲女子全国大会八戸大会 小学4～6年210人集結
(20)	ヴァンラーレ八戸 小中学生向けイベント 職業体験と観戦一緒に

【行政】

記事	
(1)	<p>八戸消防本部 119番映像通報システム導入 県内2例目</p> <p>八戸消防本部は9月から、119番映像通報システムの運用を始めた。通報者がスマートフォンで現場の映像を指令センターに送信し、指令管制員が状況を即座に把握することで、迅速な救急・消防活動につなげる。映像送信は管制員が有効と判断した場合に通報者へ協力を依頼。了承が得られた時のみ、ショートメッセージで映像送信用URLを通報者のスマートフォンに送り、映像を送信してもらう。また、同システムは通報者へ動画を送ることも可能で、処置方法の説明にも利用できる。同システムの導入は県内2例目。</p>
(2)	<p>同行者優待「超帰省」満喫 八戸で街歩きなどモニターツアー</p> <p>八戸市は今年度試行的に実施する「超帰省応援事業」の一環として、市出身者らが市外の友人などを連れて帰省した際に、体験や施設見学ができる優待クーポンを配布している。9月は市内3事業者が若者を対象としたモニターツアーを企画。このうち、5日には同市のゲストハウス「トセノイエ」が企画した3日間のモニターツアーに県外の大学院生3人が参加し、酒蔵見学やガイドの案内による中心街の横丁での街歩きなどを満喫した。市は旅の様子の撮影した動画を製作し、事業の宣伝に活用する。</p>
(3)	<p>「みなっ知」来館者20万人達成 震災伝承施設</p> <p>八戸市みなと体験学習館「みなっ知」の来館者数が9月24日、20万人に到達した。同館は、市が旧八戸測候所の建物を国から取得、改修し、2019年にオープン。展示に関する案内員を配置し、十分な駐車場があることなどから、震災伝承施設としては県内で唯一、震災伝承ネットワーク協議会から最も体制が充実している「第3分類」の認定を受けている。学校などの団体利用のほか、最近では訪日客や県外からの個人旅行者の来館も増えているという。</p>
(4)	<p>八戸市 本年度のデジタル技術活用事業開始</p> <p>デジタル技術の活用で地域の課題解決を図る「Hachinohe X-Tech Innovation（ハチノヘクロステック イノベーション）」事業で、八戸市は募集企業と連携し、本年度の実証プロジェクトに着手した。本年度のプロジェクトは「持続可能な町内会の実現」「八戸ワインに関するブドウの品質と収穫量向上」「粗大ごみ受付のデジタル化」の3つ。このうち、町内会のプロジェクトを担当する広報ITサービス事業の「しがとせかい」（滋賀県）は9月24日、モデルとなる高館地区連合町内会を訪ね、ホームページを活用した町内会活動の情報発信体制の構築に向け、地区内を見学しながら関係者らと意見交換した。</p>
(5)	<p>八戸市営バス デジタルチケット導入 1日乗車券5種</p> <p>八戸市は10月1日から、市営バスの利用促進に向けスマートフォンで利用できる「デジタルチケット」を導入する。市内循環線や種差海岸遊覧バス「うみねこ号」、日曜朝市循環バス「いさば号」など5種類の1日乗車券で、9月27日から販売を始めた。市営バスは市内外からの観光客やビジネス客の利用も目立つため、利便性の向上につなげる。デジタルチケットは、市交通部のホームページから販売サイトにアクセスし、クレジットカードで購入。整理券を取ってバスに乗車し、降車時にデジタルチケットの「改札する」を乗務員に表示する。</p>

(6)	中心街、本好きでにぎわい「八戸ブックフェス」開催 「本のまち八戸ブックフェス2025」が9月27、28日、八戸市の「はっち」と八戸ブックセンターで行われた。地域を「本のまち」として活性化させようと、同センターが市中心街で2018年から実施。初日は、はっちひろばに出版社のイチ押し本や古本などがずらりと並び、来場者が店主と本の話で盛り上がりながら、本の魅力を味わっていた。最終日はマチニワまで会場を拡大し、三沢市の作家高瀬乃一さんのトークイベント＆サイン会や、学校図書館ブックリサイクルフェア、おはなし会などが行われ、中心街は多くの本好きでにぎわった。
(7)	八戸市と誘致企業 人材確保へ意見交換 八戸市は9月30日、市内に事業所を置く誘致企業との意見交換会を開いた。意見交換会は2年ごとに開催。市の誘致認定件数は現在135件と企業数が多くなっており、今回から業種を絞る形で設定した。製造や物流関係の20社が出席し、八戸公共職業安定所、八戸商工会議所、教育機関などの関係者がオブザーバーとして参加。人手不足に伴う人材確保や企業への定着をテーマに各社が取組などを紹介し、問題解決への糸口を探った。
(8)	八戸公園こどもの国・遊園地ゾーン フリーパス導入検討 八戸市は、八戸公園こどもの国の遊園地ゾーンで、園内の乗り物が一定料金で乗り放題となるフリーパスを来年度から試験導入する方針を明らかにした。遊園地ゾーンにある乗り物13種類のうち11種類の利用には、1枚110円の「乗り物券」が11枚つづりで1,100円の回数券を事前購入する必要があるが、足りずに再度購入する利用者が多く、連休や週末などは購入窓口が混雑する。昨年度から実施したアンケートでは、回答者の約74%がフリーパスを利用したいと答えるなど高いニーズが伺えた。市は来年度の試行で利用状況を見極め、本格導入の可否を探る。

【産業】

記事	概要
(9)	八戸・谷地田地区 農地整備が本格化 担い手へ集約、経営拡大 農地の集積・集約に向け、青森県による八戸市谷地田地区の農地整備事業が本格化している。農地の大区画化や用水・排水設備を整備。規模拡大の志向がある担い手へ農地を集約して1戸当たりの経営規模を拡大し、競争力の高い経営体を育成するのが狙い。市内では初めての取組で、対象エリアは市立下長中近くに位置する約41.5haの水田地帯。2027年春には対象となるエリア全域で営農を開始できる見通し。9月1日には熊谷市長が現地を視察し、取組が市内の他地域にも広がればと期待を寄せた。
(10)	八戸市魚菜小売市場 9、10月第2土日曜にお試し「臨時営業」 八戸市魚菜小売市場が、9、10月の第2土日曜に臨時営業している。秋の行楽シーズンの3連休での試験的な取組で、多くの市民や観光客の利用につなげる。今年は繁忙期のゴールデンウィーク期間と8月の第2週などに日曜営業したが、9、10月は初の試み。日曜に開催される館鼻岸壁朝市との相互誘客にも期待する。普段は仕入れで訪れる業者も多い同市場には、関西、九州といった遠方や欧米からの観光客も増加。近隣では民間による再開発も進んでおり、「市民の台所」としての機能を守りながら、さらなる魅力向上に向けて観光ニーズへの対応も模索する。

(11)	<p>はちのへ企業魅力発信×発見フェア 生徒や学生、ブースで体感</p> <p>高校生や大学生らを対象とした「はちのへ企業魅力発信×発見フェア」が9月13日、市内で開かれた。将来の進路や地元就職を考えるきっかけとしてもらうため、市と八戸商工会議所、市内の高等教育機関で組織する「八戸産学官連携推進会議」が初開催。市内に本社や事業所を構える企業43社がブースを出展し、仮想現実（VR）技術を使った溶接体験や株式投資のゲームなどを通して、仕事のイメージを分かりやすく学生らに説明した。このほか、タレントのあべこうじさんと高校生によるトークセッションや、Uターンや地元就職を考える保護者らを対象にした「地元就職セミナー」も行われた。</p>
(12)	<p>米国スーパーで青森フードフェア 八戸圏域商品アピール</p> <p>米国オレゴン州の日系スーパー宇和島屋ビーバートン店で9月17～30日、「AOMORI FOOD FAIR（青森フードフェア）」が開催された。八戸市と同社の共同開催。市が5月に同社のバイヤーを招き開いた商談会で成約となった、八戸圏域の10社が製造する水産加工品やお菓子など47品を販売した。また、26～28日の3日間は、味の海翁堂、オフィス弁慶、かねご製餡、吉田屋の4社と市の職員らが現地を訪れ、来客者へ商品の特徴などを説明。多くの来店客が興味を示した。</p>
(13)	<p>サンフェスHACHINOHE2025初開催 八戸の誇る「職」「食」体感</p> <p>地元企業や食をテーマに八戸市の魅力に触れるイベント「サンフェスHACHINOHE2025」が9月28日、市庁前市民広場などで開かれた。若者の地元定着促進や地産地消の拡大を目的に、市や八戸商工会議所などでつくる実行委員会が初めて企画。同広場などでは参加した22社・団体の仕事紹介ブースが設けられ、子どもたちがものづくりやプログラミングなどの職業体験を通して企業の魅力に触れたほか、YSアリーナ八戸の屋外会場では地元の農畜産品・水産加工品などが販売され、来場者が地域の食を満喫した。また、市美術館前では市内4高等教育機関が特色や学校生活などのPRブースが設けられるなど、各会場で多彩な催しが行われた。</p>

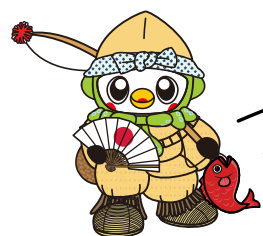
【地域】

記事	概要
(14)	<p>南部弁ユーモアあふれ 南部昔コキャラバン隊 初の発表会</p> <p>八戸市の読み聞かせ団体「南部昔コキャラバン隊」による初の発表会が9月21日、更上閣で開かれた。2017年に発足した同隊は、これまで依頼を受けて読み聞かせなどを行ってきたが、今回初めて発表会を企画。「更上閣で南部昔コを楽しもう！」と題し、隊員14人が昔話「キツネの嫁さん」や寸劇「貧乏神様ど福の神様」など計13作品を披露した。それぞれの個性あふれる南部弁の語り口や豊かな表情で、訪れた地域住民ら約60人を楽しませた。</p>
(15)	<p>鍛冶町地区の喫茶ヘバナ 朝食で団らん多世代交流 高齢者をサポート</p> <p>八戸市鍛冶町地区の「喫茶ヘバナ」で9月25日、朝食を楽しみながら交流する企画「ばあちゃんの朝めし」が開かれた。地域住民が多世代と交流しながら健康的に一日のスタートを切ってほしいと、ヘバナと吹上地区社会福祉協議会が共催し初開催。この日は早朝から、同社協の3人が目玉焼きをもやしで囲った「巣ごもり玉子」や野菜のみそ汁などを作り200円で提供。訪れた市民らが食事を味わいながら、朝のひとときを楽しんだ。今後は月1回程度の開催を目指す。</p>

(16)	お薦め名所 ポスターに 工大二高生、八戸駅連絡通路に展示
	八戸市のユートリーとJR八戸駅を結ぶ駅前駐車場連絡通路で9月25日、八戸工大二高美術コースの生徒による、地域の名所や一押しスポットを描いたオリジナル観光ポスターの展示が始まった。市の「私たちのおすすめ観光ポスター」と題した取組で、2005年から同校生徒の作品を2年ごとに更新してきた。同校2、3年生の作品35点を展示しており、今後2年間、青森県南と岩手県北の魅力を観光客に発信する。

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	県民文化祭 八戸主会場に 芸術の秋 舞踏で幕開け 第35回青森県民文化祭が9月7日、八戸市を主会場に開幕した。11月下旬まで、合唱や能楽、文芸など16分野を実施する。初日はSG GROUPホールはちのへ（市公会堂）でオープニングフェスティバルが行われ、「響け この地に 南部の風よ」をテーマに総勢約250人が出演。市内の舞踊団体が長唄に合わせて「八戸小唄」や「八戸四季」の踊りを披露したほか、八戸童話会による昔話などが行われ、詰め掛けた観客を魅了した。八戸市を中心とした三八地域が主会場になるのは、2020年以来5年ぶり。
(18)	佐々木選手（工大一）国スポ競泳200m個人メドレー 2連覇 国民スポーツ大会は9月15日、滋賀県草津市で先行開催の競泳最終日が行われた。少年女子B 200m個人メドレーで、佐々木珠南選手（ウイング八戸、工大一高1年）が2分12秒89で優勝し、2連覇を果たした。8月の世界ジュニア選手権では個人メドレーの200m、400m共に表彰台に上っており、予選は余力を残して1位通過。決勝は最初のバタフライでトップに躍り出ると、最後まで先頭を譲ることなく圧巻の泳ぎを見せた。13日に行われた少年女子B 100m自由形では、1位と0.01秒差で2位だった。
(19)	わんぱく相撲女子全国大会八戸大会 小学4～6年210人集結 第6回わんぱく相撲女子全国大会八戸大会が9月21日、八戸市体育館で開かれた。東北地方での開催は初めて。全国各地から地区大会を勝ち抜いた小学4～6年生の女子210人が出場し、学年ごとにトーナメント戦を行った。青森県からは各学年2人、計6人が出場。観客席は地元選手を応援する関係者で埋まり、豪快な投げや土俵際の攻防に大きな声援が送られた。会場には地元グルメや物販のブースが設けられ、来場者をもてなした。
(20)	ヴァンラーレ八戸 小中学生向けイベント 職業体験と観戦一緒に ヴァンラーレ八戸は9月26日、八戸市プライフーズスタジアムでのホーム戦に合わせ、試合観戦に職業体験などを組み合わせた「スクールトリップデー」を去年に引き続き開催した。今年は19の企業や自治体がブースを設置。八戸や五戸などホームタウン8市町村から小中学生約850人が参加し、各ブースを回りながらドローンの操縦や建築などさまざまな職業の魅力に触れた。この日はJ3で首位のヴァンラーレ八戸と2位の鹿児島ユナイテッドが対戦。ヴァンラーレ八戸が首位攻防戦を1－0で制し、サポーターと共に熱い声援を送った小中学生へ見事な勝利を届けた。



企業版ふるさと納税の3つの魅力



『企業版ふるさと納税』の案内

『企業版ふるさと納税』で八戸を応援！

八戸市では「まち・ひと・しごと」に関する事業を推進しており、応援していただけるみなさまの気持ちを、八戸市のまちづくりに活かしていきたいと考えています。ぜひこの機会に「企業版ふるさと納税」へのご協力をお願いいたします。

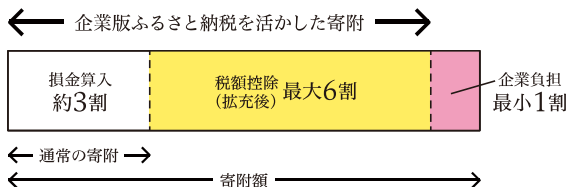


1 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

2 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



3 自社PR

ご寄附をいただいた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。

申込み方法

電話

メール

二次元バーコード

申込み・お問合せ先

政策推進課

企業版ふるさと納税担当

TEL:0178-43-9233

Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



[寄附受付事業]

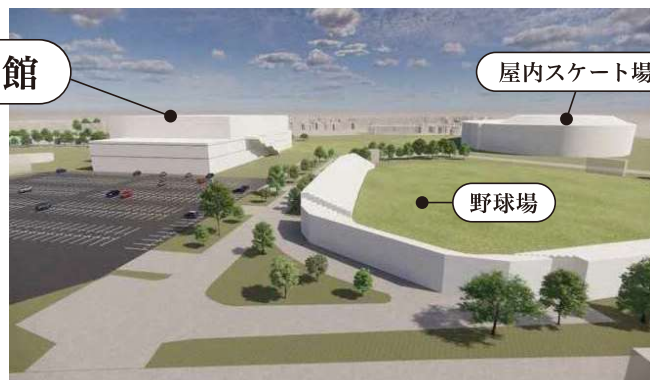
●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。

新体育館

屋内スケート場

野球場



●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかずきんズ」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

魅力を発信することで

- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
- ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
- ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。

●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。



はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

1 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

2 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

3 お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。——→
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

送付先・お問合せ先

広報統計課 ふるさと寄附金担当
〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
TEL:0178-43-2319
FAX:0178-47-1485
Email: furusatotax@city.hachinohe.aomori.jp

インターネット

- 下記5つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



ふるなび



JRE MALL



Amazonふるさと納税



八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 大西 伸一郎 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っています。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。

また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

